

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①大内伸哉他編著『解雇規制を問い直す』有斐閣 (xii+326頁, A5判)</p> <p>6月4日に公表された政府の「規制改革推進に関する第3次答申」では、「解雇無効時における金銭救済制度」の法技術的な論点についての専門的な検討を継続するとしている。これを踏まえて、厚生労働省は6月12日に「解雇無効時の金銭救済制度に係る法技術的論点に関する検討会」を設置。解雇の金銭解決については、この検討会の今後の動向が注目される。こうしたなかで発表された本書では、「許される解雇」であっても、企業に適切な雇用終了コストを負担させて、過剰な解雇がなされないようにする必要があり、その従業員が職業人生に被る賃金面の不利益を全て補償する「完全補償ルール」を基礎にすべきだと政策提言する。法学者と経済学者による共同研究の成果。</p>	<p>③小森田龍生著『過労自死の社会学』専修大学出版局 (x+209頁, A5判)</p> <p>1990年代以降、日本社会で広く認識されるようになった過労自死（過労自殺）の特徴と発生メカニズム、社会的背景を浮き彫りにする。直近の過労自死の発生件数は、確実に増加傾向にあると分析。2013年の自死件数は177件で98年の6倍以上に相当するなど急増している。自死が労災として認定されなかったのは、戦後一貫して個人の故意による自損行為と判断されてきたことによるが、80年代に過労死への関心が高まるなか、状況に変化が発生。過労自死の労災請求が行われるようになった。そして、96年の「電通事件」をきっかけに過労自死問題の社会的評価が改まったという。発生メカニズムとしては「ノルマ未達成」「人間関係上の問題」が影響していることに注目している。</p>
<p>②初見康行著『若年者の早期離職』中央経済社 (4+2+269頁, A5判)</p> <p>本書は、いわゆる「7・5・3」問題に代表される若年者の早期離職が企業、個人、社会にとって潜在的な脅威になっているとみる。特に大卒就職に関しては、バブル経済以降の変動を「バブル期」「ロス期」「ポスト期」など四つに分類。バブル期は採用需要が拡大する一方、ロス期は就職氷河期に。ポスト期は「いざなぎ景気超え」による採用再活性期を迎えたが、2008年秋には再び金融危機により新卒採用が抑制されたと指摘する。半面で、若年者の「職場の人間関係」に注目し、上司、先輩、同期との関係が早期離職に及ぼす影響を解明。その人間関係の影響を検証するために「アイデンティフィケーション」の概念を導入し、若者の就労が長続きしない要因を分析している。</p>	<p>④博報堂キャリアジョ研著『働く女の腹の底』光文社 (226頁, 新書判)</p> <p>本書は「キャリア（職業）を持ち、お金と時間を自分のために使いやすい子供のいない女性」を「キャリアジョ」と命名した。キャリアジョの仕事関連の意識で最も高かったのは「仕事がんばるためにはプライベートが大事だと思う」の83.5%。「仕事よりもプライベートを優先したい」は65.8%で続き、仕事一辺倒の生活は嫌なのが見える。とはいえ、仕事にやる気がないわけではなく、「仕事にはやりがいが必要」「仕事を通して成長したい」との回答も7割を超えた。いまを生きる多様な働く女性の実像に迫り、仕事観、恋愛観、結婚観とその背景、SNSの使い方、悩みや本音など様々な視点から解説。キャリアジョを7パターンに分類し、その特徴を物語形式で明かす。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2018年5月—6月労働図書館受け入れ)

- ⑤村林俊行他著『有期契約社員の無期転換制度実務対応のすべて』日本加除出版(287頁, A5判)
- ⑥宮本弘暁著『労働経済学』新世社(x+274頁, A5判)
- ⑦大山泰弘著『働く幸せ』の道:知的障がい者に導かれて』WAVE出版(191頁, 四六判)
- ⑧日向咲嗣著『58歳からのハローワーク200%活用術』朝日新聞社(253頁, A5判)
- ⑨今野晴貴他著『裁量労働はなぜ危険か』岩波書店(89頁, A5判)
- ⑩友弘克幸著『よくわかる未払い残業代請求のキホン』労働調査会(8+188頁, 四六判)
- ⑪田村尚子著『感情労働マネジメント』生産性出版(248頁, 四六判)
- ⑫D.L. プルステン編著『キャリアを超えてワーキング心理学』白桃書房(xix+423頁, B5判)
- ⑬宮崎里司他編著『外国人看護・介護人材とサスティナビリティ』くろしお出版(ix+291頁, A5判)
- ⑭白川昌生他編『芸術と労働』水声社(236頁, A5判)

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書122,617冊、洋書31,228冊、和洋の製本雑誌26,328冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(264種)、洋雑誌(142種)、紀要(509種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

